

切り絵作家 稲葉祐吉作 (JRIイオカードに採用)



二〇〇〇年 庚辰(かのえたつ)

やよい

発行責任者
 都立向丘高校同窓会
 会長 小川力洋
 編集 広報委員会
 事務局 〒113-0023
 東京都文京区向丘1-11-18
 向丘高校内
 TEL 3811-2022
 FAX 3812-4055

同 窓 会 の ご 案 内

4月29日(土) みどりの日

① 総会記念作品展 “切り絵作家 稲葉祐吉展” (本校卒業生)

チンチン電車の通る街シリーズから原画 (全紙大723×530^m/m) 10点。

【出展時間】 12:00~17:00

【対 象】 会員、在校生、父母、一般 ※入場無料

【場 所】 母校6階ホール

② アトラクション、マンドリンコンサート

出 演: 飛鳥山マンドリンクラブ

曲 目: 第一部 日本の詩 (童謡集、悲しい酒、青い山脈、いつでも夢を 等)

第二部 スクリーンミュージック (鉄道員、第三の男、大いなる西部 等)

【受 付】 13:30~ 【演 奏】 14:00~15:00

【場 所】 母校6階ホール 【対 象】 会員、在校生、父母、一般 ※入場無料

③ 総 会 15:30~ 【場 所】 母校6階ホール

④ 懇 親 会 16:15~18:15 【場 所】 母校6階ホール

【参加費】 ¥3,000 (但し平成11・12年卒業生は¥1,500)

【申込方法】 4月20日(木)迄 振込完了をもってお申込みとさせていただきます
同封の振替用紙をご使用下さい

御挨拶

向上頼もしい母校と共に 同窓会活動に積極参加を



同窓会長
小川 力洋

新校舎落成祝と同時に創立五十周年記念式典等を平成十年十月十日に挙行して以来、母校の気持は急上昇しました。

昨年も本年も、推薦入試志願者率が都立普通科一六二校中、一、二位という状況でした。益々名実共に有名校の仲間入りとなりましょう。同窓生として頼もしい限りであります。

我が会といたしましても、その威勢を借りて、活性化へと一歩一歩努力・前進しております。会員各位の認識を新たに喚起し上げるべく催物を考慮して来ているところであります。

昨年の総会時には「シャンソン歌手広瀬節子(本姓津田)」をお招きいたしました。六階ホール満席となる程に大勢のご参加を頂き、大多数の方々が本場のシャンソンに魅了された様でした。本校卒業生というところで、気易くご出演のご協力を頂いたことをご報告すると同時に感謝申し上げます。

続いて総会・懇親会となりました。往年の先生方(写真参照)にもご参加頂き錦上華をお添えて下さり、誠にありがたく存じ上げます。ところで会員の参加がもつと増えたいと欲しく考えておりますが、如何なものかでしょうか。母校へ立ち寄れるチャンスとも思います

が、どうか賢明なる皆様からご意見を頂きたいと願うものです。

もう一方、ホームカミング(学校訪問)母校の向陵祭と合わせて開いております。昨年は九月二十六日(日)にB棟四階視聴覚教室にて「骨と健康のはなし」と題し横浜市立大学理学部教授・谷嶋二三男氏にご講演をお願いいたしました。骨の役割はからだを支える、臓器の保護までは分っている筈だがカルシウム貯蔵庫であり、血球をつくる場所という。骨を丈夫にするには、立つ・跳る・ジョギング等の長軸方向の運動が効果的であり、日光浴も最良な補助源だという。女子は男子に比べ最大骨量が元来低く閉経後は急激な減少となるという。そんな点で骨粗鬆症が女性に多いそうです。

同窓会の重点活動は、年一回ではあります。会報発行を通して、意志の疎通を図るべく、定期総会・懇親会のご案内とさせて頂いております。どんな会でも参加して見て、はじめてその良さなりメリットに触れられるものです。会員各々が自覚され、進んで行動を起こして、ご縁ある身近な母校として、ご参加頂きたいものと念願申し上げます。新卒業生を加えて、全国に通算一万五千九百八十三名となりましたが住所判明者は一万名余りです。全会標(除拒否者)にご配布できることを目標としておりますので、知人・友人で未届きの方においででしたら、即ご通知下さいます様お願いいたしておきます。客員、会員各位の益々のご活躍、ご発展を御祈念申し上げます。ご挨拶いたします。

向丘高校近況報告

進学実績の倍化 地域社会との連携



教頭
須永 孝

今、向丘高校では、近代的な新校舎の中で生徒の明るく元気な声が飛び交う毎日です。

本校の入学者選抜は毎年高倍率を維持し、お陰様で生徒の学習意欲は高まり、活発な教育活動が展開されています。その結果、本校卒業生の大学・短大進学実績においては、数年前の二倍近い合格者を出すに至っています。そこで教職員は、この躍進に慢心することなく、さらなる一層の飛躍に向かって、新校舎に見劣りしない教育的な充実を図ろうと努力を続けているところです。

また、生徒の生活態度も、徐々にではありますが良くなってきました。生徒・教職員の美化・清掃活動によって、校内は掃き清められ美しく保たれています。そして、「はじめキャンペーン」なる生徒部の呼びかけ指導によって、生徒の生活態度も変化してきています。近隣からの苦情も激減しました。

これからの向丘高校は、本校の特色であるコンピュータ活用による教育をさらに発展させるとともに、地

域との関係を深め、より信頼される学校に脱皮していかなければならないと考えているところです。生徒・保護者・地域の声に耳を傾け、謙虚になつて学校改革を進めながら、学校は、生徒・保護者・地域に学校の方針や努力を理解してもらえよう働きかける必要があります。

現在は、学校施設の開放や公開講座の開講、そして家庭科の授業における地域の高齢の方々との交流などが行われています。これらをさらに充実させながら、地域とともに発展する開かれた学校を目指していこうと進めております。

このように、本校においては、築かれた伝統を懸命に守りながら、更に充実・発展させたいと努力を続けておりますので、変わらぬご支援・ご協力のほどをお願い申し上げます。終りになりますが、過ぎ去った高校時代を懐かしみ振り返る事によって、明日

に向かつてのエネルギーとなる同窓会活動が、さらに盛んになるように切に願っております。



懇親会にご参加先生方
大山 会津 水山 会長 中荏 渡辺

学校は変革する

学区一の高倍卒選抜

理想の実現を目指す



校長 北村 正生

同窓会の皆さまには、母校、向丘高校について様々な面からご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

新校舎を使い始めてから三年目に入りました。プレハブ仮校舎で大変ご不便をかけたりましたが、最後にプレハブでの学校生活をした生徒が先月卒業いたしました。プレハブでの生活も結構楽しいものであって、懐かしいという卒業生もいました。貴重な経験であったといえるのかもしれない。

さて、最近の「が丘生」についてですが、現代高校生の生活様式の現れが本校にも見られます。どこでもかまわず床に腰を下ろす。廊下でグループで昼食をとる。空きバック、空き缶を放置する等のことです。これに対しては、生徒部の呼びかけで「けじめをつけよう」をスローガンに全職員一丸となって徹底指導を展開しました。その成果が出ています。校内の美化も保持できていて、床、壁はいたずら書きはほとんどなく、さすが「が丘生」と感じております。

入学者選抜は、学区の扱いが変わり、自学区と他学区（四学区以外の全て）の二つとなり、本校では募集定員の40%までを希望があれば他学区から受け入れます。これは、数年間の応募状況（高倍率）と交通機関の利便などを分析した結果に基づくものです。また、男女定員枠が緩和されます。定員の90%までは男女別に合格者を決め、残りの10%においては性別を問わないで上位者から合格を決める方式です。

学区で一番倍率の高い選抜をパスして本校に入学されるのですから、入学時の夢が達成できるような仕上がりとなる教育をしていかなければならないと職員一同自覚し、努力しているところであります。

卒業生の皆さんの中には地域で活躍の方も多いためです。都では、地域に開かれた学校を目指して、「学校運営連絡協議会」と呼ばれる施策が十三年度から全校に実施されます。外部の方を含めて委員会を組織し、学校の教育内容などについて意見を伺ったり、ご協力をお願いしたりします。

このように都立高校の様々な改革の流れの中に本校もある訳ですが、先輩の皆さんが長年にわたって築いてこられた本校のすばらしい歴史と伝統を大切に、更に深めていきたいと思っております。同窓会の益々のご発展を祈念いたしております。

思い出・想い出

山行との出会い

（島根先生との思い出）



S31年卒 川端 春生 (三橋)

昭和二十九年、どうしてそう言う経緯になったのか、全く思い出すことができない。北アルプス裏銀座の縦走・四泊五日（車中一泊）の山行へ参加することになった。引率者は、島根康郎先生（社会科担当）で、同行者は上級生が二人、全部で四名だった。

夜行列車に乗って、夜が明けぬうちに信濃大町駅に着き、タクシーで登山口へ向かう。

登りは標高二千六百二十七米の烏帽子岳、いよいよ北アルプスの最高峰・槍ヶ岳登頂の出発である。

第一日目は、ただひたすら山道を登っていた。急な登りの連続で、心臓がこめかみのあたりで思いっきり鼓動し、喉がからからに渴き、妙に地球の引力が強くなったように足の動きが鈍くなってくる。本格的な山行とはこういうものかと、前を行く人の足元を遅れないように見つめながら一心不乱にわき目もふらずに歩き続けた。登り切ったときの感慨は

一入だった。稜線を歩いて程なく小屋についた。山の高さが心を圧倒した。

二日目、野口五郎岳、本当に水晶が露出している水晶岳、鷲が羽を広げたように見える鷲羽岳を経て三俣蓮華小屋へ。尾根伝いに歩きながら天空に三百六十度の絶景に酔ってしまった。山々を見ながら露天の五右衛門風呂につかり「ああ絶景かな、絶景かな」と思わず口からこぼれた。

三日目、三俣蓮華岳を登り、双六岳を経て槍小屋へ。早めに着いたので荷物をおいて槍ヶ岳山頂（三千八百八十米）へ。鎖に捕まりながら急峻な岩場をはい登り山頂に立つ。一坪に満たない頂に立って、辿ってきた道を眺める。感無量だった。穂高がそこに見える、燕があれだ。

夜、満天の星が感動的だった。手に届きそうな星が一杯で星座も見えない。すごい。

最後の日は槍沢の下り。膝が笑い始めた頃、上高地に着いた。きれいな梓川と河童橋、車窓から大正池や焼岳を見ながら帰路についた。

三年間、島根先生に授業は教わっていない。しかし、向丘の生徒と行うことで、山行に誘っていただいた。学校を通して、先生と生徒との信頼関係がなければできなかったことだった。よい時代のよい思い出と言っただけでなく、その後、中央アルプスや南アルプスを縦走したり、山行の魅力味わった出会いだった。

校舎の床・壁、机・椅子を 達磨ストーブの中へ！

(昭和四十二年冬、今は昔の思い出)



S45年卒
宮久保 渡

一昨年、創立五十周年、新校舎落成記念祝賀会に、同窓会の一員として出席させてもらった。素晴らしい校舎となり、それだけが理由ではないと思うが、入学希望者が大いに増えたことを、OBとして大変喜ばしく思っている。

それにつけても、時間の経つのは早いと感じるこの頃だが、三十年以上の前の事を同窓会や折に触れて思い出す。特に校舎については、思い出が深い。

私が入学した昭和四十二年は、一年生のE・F・Gの三クラス(私の記憶だが、但し私のクラスはG組だったので間違いない)だけが、木造二階の古い建物で、二階は空き教室があり、それも次年度に取り壊す予定になっていた校舎だった。

秋までは、校庭に面していて、それなりに快適だったと記憶している。しかし、昭和四十三年冬、一月から三月にかけてこの時期の寒さ対策が大変で、また面白かったと今でも思い出す。

今ではほとんど見かけられないが、

当時その三クラスだけが達磨ストーブで、他の教室は鉄筋建てで、暖房はガスストーブだった。達磨ストーブに入れるコークスは配給制で、朝バケツに一杯だけであった。

雪が降るような寒い日は、当然朝から目一杯コークスをストーブに入れるので、午前中でコークスがなくなってしまうことが度々あった。そういう場合は、黙ってコークス置場から持ってくることを最初はやってきたが、鍵がかけられてそれも出来なくなった。そのうちに、誰かが二階の空き教室の椅子・机をこわして、ストーブに入れ始め、そうなることコークスがなくなると、二階の椅子・机が少しづつなくなり、それから、床・壁を引き剥がしては、ストーブでもやし続けた。

多分、他のクラスも同様なことをやっていったと思うが、しばらくすると二階の床・壁がいたるところに穴が空き、一階にいても寒さが一層深まる事態になった。

今、思い出しても、校舎の形が変わる前に春がきたことを、良かったと思っている。

三十年以上経った現在でも、同期会の度にこの話題が出る程である。

あれから二回校舎は新築されたが、それぞれの時代の校舎と同窓生は綿々と続いており、皆さんと共に、向丘高校の歴史と伝統を大切にしたいと思う。

友は宝だ・財産なのだ!!



S57年卒
佐久間善典

私の高校時代は、今思うと、大変勿体無いことだと思うのですが、ただ何となく高校に通っているような、大人から、見れば無気力、無関心な高校生の人であったと思います。その私が高校へ行って何をしていたかと言うと、当時ブームであったプロレスごっこを休憩時間に廻りの目にも気にせず友人達と繰りひろげておりました。段々とそれもエスカレートして休憩時間だけでなく、放課後も誰かの自宅へ集まってまでも、休憩時間の延長をつづけ、挙句の果て本気になり、ケンカになってしまったことも暫々でした。今考えると、高校生としてはあまりにも幼稚であったなあと、恥ずかしく思います。このような高校時代を一緒に過ごした友人達も、あつという間に年月が経ち、それぞれ卒業後、別な道を歩み、社会の中堅層として活躍？するようになりまして。高校時代と言えは、ただ単にジャレあつていただけだったが、卒業後もこの友人関係は続いて行くのだろうかと思っていました。が、今だに高校時代の友人達との交流は続いています。(ただ今はもう会せんが)おもしろいと思うことは月

日というものが人を大人にしていき、昔ジャレあつていた友人達も、それぞれ社会の中堅層の一翼を担うようになり、高校時代とは違った一面をみせるようになりました。昔のこイツはなあと思いつつも、友人達の社会での苦労話など聞くと、こちらもガンバラナケレバという発奮材料となります。又、友人達に掛け値なしで助けてもらったり、仕事上のアドバイス等ももらったりもします。(ここで私事で恐縮ですが、同僚の小室君から、当校同窓会の先輩にあたる山田先輩を紹介頂き、又、山田さんのおかげで、随分と仕事の上で助けて頂きました。この場を借りて、お二人に感謝します。)

今思えば、ほんとうに高校時代は、幼稚なことばかりのつき合いの友人達。互いに年月と共に、私にとって大切な財産なのだなあと思います。最後に同窓会の皆さん、又、在校生の皆さん、ぜひ友人は大切にして下さい。どういう形であれ、皆さんの財産となることは確かです。



H12.1.24 編集会後の団樂 (有志)

活動だより

二分スピーチに沸き立ったクラス会



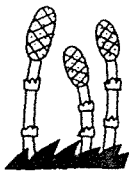
S 36年卒 川端 猛

十月二十三日に行いました十三期生(昭和三十六年卒・坂本クラス)のクラス会の模様を報告致します。五十三名中の四十五名の住所が判りました。二時からの長寿庵でのクラス会には二十九名が参加致しました。早く来た人達には新築した校舎を見学してもらいました。遠くは室蘭市や富山市から参加しました。坂本先生(八十五歳)は体調が悪く結局ご欠席になりました。受付で逢った瞬間には誰が誰やら戸惑いましたが、五分もすると何時の間にか昔の顔になっっているのには驚きました。幹事長の松浦君が先生の近況報告を、いただいたメッセージの朗読と一緒に行いました。メッセージのコピーは全員に配ってあったのですが、何分にも難しい用語が多く、話題になりました。

会の進行に連れて、席も乱れてあつちこつちで話の花が咲きました。最後には向丘高校の校歌を斉唱しました。

二次会は予約をしておいた白山上の居酒屋に行きました。予想より多く二十五名が集まりました。大きな輪になって歌い、飲み、昔話もたくさん飛び出しました。三次会は近くの喫茶店(ほぼ貸切)に二十名が集まりました。尽きることなく話題がありました。次回での再会を誓いながら十時三十分ごろやっと解散しました。楽しく懐かしく何時の間にかやが時が過ぎてしまいました。

仲間が美しく歳を取っていると思えました。みんなの貴重な体験や昔話がとても新鮮に感じられました。



参加者には二三分づつ近況報告をしてもらいました。先生との思い出を話す人、ご主人を亡くした人、離婚をした人、仕事の話をする人、子供の話を話す人など様々でした。

昭和三十六年卒(十三期生)の皆さん同窓会を開きませんか!

舟木一夫の「高校三年生」を聞きながら卒業していった私達十三期生A組(坂本先生)では久しぶりにクラス会を開催しました(平成十一年十月)。

卒業後三十八年という事で名簿の整理に戸惑いましたが、五十三名中の四十五名の消息が判りました。当日は二十九名が参加しました。坂本先生(八十五歳)は体調が悪く欠席でしたが、丁寧なメッセージとお祝いを贈って下さいました。会は三次会まで続き、再会を約束して解散しました。楽しく懐かしく心豊かな一日でした。

さて、その席で「同期会」を開催しては!と言う話が出ました。三年間の高校生活はクラス単位の行動だけではありませんでした。クラブ活



S 34年卒 関 良江 (原田)

平成十一年六月二十六日(土)に第三回向丘演劇部OB会が開催。場所 銀座東芝8F クルーズクルーズ船室 乗組員 長田先生を船長とおおぐ十八人のクルーズたち 平均六十?才の若人たち

動、林間学校、フォークダンス、修学旅行など多くの共通の思い出がありました。クラス再編により親しい仲間が離別した事もありました。C組(降旗先生)では三年毎にクラス会を開催していると聞いています。B組やD組、E組やF組ではどうなっていますか? そろそろ「赤いチャンチャンコ」の年齢になりましたが、同期会を開いて昔話や近況を語らいませんか! A組では松浦と川端が準備に参加予定をしています。ご連絡をお待ちしています。平成十二年三月 [E-mail] itsumatsura@unisy.co.jp 松浦 伍夫 [E-mail] kawabata@ce.aisai.ac.jp 川端 猛

演劇部OB会報告とご案内

話題は芸術論からファッションへ、文学論からお酒の話まで、時のたつのも忘れての航海でした。二十五年ぶりの再会を祝って飲むお酒の味に酔いしれる人、自分のお店の活躍を語る人:様々です。今回集った方々の中では、昭和三十四年度卒業の人が一番の後輩です。この後に続く方々の参加が楽しみ:とは全員の願望でした。どうぞ三十五年以後の演劇部の皆様、この記事を御覧になりましたら、御一報下さいませ。連絡先は テー10410051 東京都中央

区価二一五〇一〇三〇八
山本 越子

〇三三三三三二七四八九(T E
L・FAX)です。

来年は、六月二十四日(土)と決
つています。

どうぞ一人でも多くの方々が、長
田先生の元に御集りになることを願
いながらこれを書いていきます。

同期会のご案内



S 41年卒
谷嶋二三男

私達第十八期生の担任の先生方は、
菅野先生、長田先生、小野先生、齊
藤先生、深井先生等です。五年前の
卒業三十年後に一回目の同期会を開
き、先の先生方のお元気な姿を拝見
いたしました。本年度の同期会にも
ぜひご参加くださいますようお願い
いたします。今回で同期会も三回目
となります。前二回は、とにかく話
が盛り上がり、何の企画もいらず、
あつという間に時間が過ぎてしま
いました。今までの参加者は約一〇〇
人程度ですが、初参加者等が加わり、
盛り上がることを期待しております。
さて、本年度の同期会は、同期生
の鈴木博氏(広島プリンスホテル)
のご好意により、池袋のサンシャイ
ンシティホテルで開催することにな
りました。従来並の参加費で、サン

シャインの五十八階の展望の良い所
で行えるようです。種々便宜を図っ
ていただく上に、サンシャインシテ
イホテルの宿泊券を提供していただ
いております(一泊二名様まで)。こ
の招待券は参加者に抽選で差し上げ
ます。また、同期会前日および当日
は、割引料金で宿泊できます。遠方
からの方やお酒の好きな方はご利用
ください。その他、エアフランスから
の簡単な記念品も用意しております。
来る四月二十九日(土曜日・みど
りの日)の同窓会の日同期会の幹
事会を開き、打ち合わせを行います。
同期会の日時は、速報でご案内し
ましたように、七月一日(土)午後
一時受付の予定です。以下は住所不
明者ですので、渡辺恵美、井村忠、
井澤弘美、野村博、原朋久、有吉美
恵子、井上知己、中川典子、消息を
ご存知の方は、幹事まで連絡下さい。

俳句の世界へのお誘い



S 31年卒
山本 越子
(福永)

「あなたの得意な言葉は何ですか?」
「やよい」のみなさんはたぶん日本
語、とお答えになるでしょう。日ご
ろ何気なく使っているそれがとても
すばらしいものだと感じた事はある
ますか?なにを今更といわれそうで
すが、俳句を始めてからしみじみい



檜紀代先生

いものだと思ふのです。

いつも見ている「空」を例にとりま
しょう。季節、時間帯、その時の心境
などで、言い表す言葉は数限りなくあ
ります。誰でも頭をよぎるその言葉
を大切に書き留めてみませんか。文
章は苦手、とおっしゃる方も十七文
字なら大丈夫。有名な芭蕉の俳句を
真似てみる、一茶の句にはめてみる、
そんな第一歩を遊んでみて下さい。

桜咲く、桜散る。今では受験合否
の電文に代用されますが、これも立
派な五文字です。そこに自分の気持
ち、周囲の様子などを加えます。上
と下の五文字を入れ替えてみる、同
じ意味でも表現を変えてみる、それ
だけで句の雰囲気が変わります。い
つも使っている日本語を指折り数え
てみると案外リズムが良いのです。
一つ出来ると面白いように続きます。

次は「師」を選びましょう。いい師を
Getすると人生の財産になります。
そろそろ年賀状の数が減ってきた
とか、新しい趣味が欲しい、などと
思う方、「沙羅の会」へお出かけ下さ
い。とても気さくな同窓生と、いい
「師」がお待ちしています。
その「師」檜紀代先生は、先号に

てご紹介した八期生(S三十二年卒)
佐藤令子(旧姓 安藤)さんです。

俳誌「遠矢」を主宰し、東京はも
とより全国にある約三十個所の句会
の指導を手がける現代女流俳人の中
堅です。いつもオシャレで華やかな
のに、華奢な体からぼんぼんと出る
言葉は的を得ていて、時に辛口です。
昨年は連絡先の番号違いで迷惑
をおかけしたにもかかわらず、先輩
がお二人、仲間に加わって下さいま
した。お若い後輩の皆さん!俳句は
歳を取ってからなんて考えていませ
んか?その考えは甘いですよ。何で
もそうですがことに俳句に王道はあ
りません。地道に一句ずつ積み重ね
ていくものらしい、と最近やっと気
がつきました。一刻も早く、ウ?と
思ったときが始め時です。今年も懲
りずにお誘いします。老若男女、年
齢経験不問。お電話、お待ちいたし
ております。

【お問い合わせ】

遠矢俳句「沙羅」俳句会事務局
t e i . f a x

〇三三三三三二七四八九
中央区佃二一五〇一〇三〇八
山本 越子

e-mail address

twi5679@mb.infoweb.ne.jp

☆句会 毎月第一木曜日
午後一時〜三時

☆会場 中央区立佃区民館三階
有楽町線「月島」駅下車
四番出口すぐ左折

区民館Tei
〇三―三五三三―六九五―
☆費用 ¥一五〇〇(入会金なし)

ひろば

理容師のための恩人



S 41年卒
尾道 郁代
(大橋)

今年の同窓会で三十数年昔を思い出せる人と再会しました。実家の家業は理容店でした。父の命令で高校入学と同時に理容学校の通信課程に在籍するという二足のわらじを履いていました。通信課程の二年間を卒業しインターン一年後、国家試験を受けることになりましたが、お客様のを頭を仕上げていない私は困りました。そんな時、江尻君にばったり会ったのです。ヘアモデルをお願いしました。"いいよ"と返事をもらいましたが練習は一日だけで国家試験に臨みました。運良く一回で合格し、資格は取れました。刃物を使う実験台を心良く引き受けてくれた江尻君に今でも感謝しています。現在はその資格を生かした仕事はしていませんが、資格を取る為の努力をしたエネルギーは今迄生きる力の原動力となっている気がします。

我が人生のルーツ向丘 そして真珠に恋して四十年



S 29年卒
武内 恭一

真珠に携わって四十年が過ぎようとしています。水産講習所卒業後、御木本真珠入社。赴任地鳥羽に降り立ったとき、潮の匂いと海の青さが私を迎えてくれました。加えて真珠の「珠」の美しさと輝き、今思うと、真珠にひと目ぼれしたとしかいえないと思うのであります。

真珠はかつて輸出産業の花形として外貨獲得に大きく貢献していました。しかし、"小さなあこや貝が造り出してくれる"という意識がなく、大量生産にふみきりました。結果は皆さんもご存知のようであっての華やかさは消えましたが、最近ようやく、自然と共生するという基本に戻り、だいぶ復興の兆しが見えてきました。川や海を見て、皆さんは美しいと感じるでしょう。しかし実際は生活汚水や工業排水で汚染されています。それはもちろん目に見えないところで私たちの生活にも影響を及ぼしているのです。現役として働いていたときは、あこや貝が自分達と同じ生き物である事を忘れていたようでした。今では

「もつと貝の事を考えよう、彼らの生きる環境を改善しよう」と同業者に呼びかけるのも自分に科せられた使命ではないかとさえ思っております。それは、真珠王、御木本幸吉が真珠を愛し、世界中の女性の身を飾りたいと研究開発した真珠養殖が、大切な日本の文化産業でもあるとしみじみ感じているからです。

昨年の夏、ひよんな事から演劇部OB会にゲストとして呼ばれました。自宅は母校に近く、散歩コースでありながら、卒業以来訪れた事はなく、新校舎もまだ拝見しておりませんが、記憶をたどると思えばたくさんあります。

なかでも進路を暗示されたのはグラウンドです。一番大きなグラウンドは一段低くなり、校舎から続いた部分が演壇のようで、朝礼や生徒集会はそこで開かれていました。三年生になったある夕暮れ、部活はすべて終わり校内に人影もまばらになった頃、友人のK、Sとその演壇に腰をかけ進路の事や将来の希望など語り合いました。二人とも商船大か水産大へ進みたかったのです。そんな時、一段低いそのグラウンドが大きな海に見えました。砂と土の乾いたグラウンドが、です。幸い二人とも希望どおり水産業界に入りました。進学前の不安定な気持ちのころ、また、明るい見通しがついたとき、そのグラウンドは、私たちを勇気づけ

たり励ましてくれました。偶然参加したそのOB会で、後輩からこんな言葉を聞きました。「武内さんは私が一年生のときの生徒会の会長でした」

そういえばそんな事もあったなあ、改めて自分の足跡を振り返ってみると、海と真珠、そして環境に関する問題提起をするようになった今、そのルーツが向丘にあった事を再発見させられる思いがいたします。

現在は真珠総合研究所を設立、鑑別とコンサルティングの仕事をおして真珠産業の健全な発展に貢献したいと思っております。

表紙の「切り絵」作家

稲葉祐吉(ゆうきち)氏紹介



S 30年卒
三谷 一郎

都民の足だった都電が東京から消えたのは昭和四十七年でした。現在は「都電荒川線」としてお馴染みの「早稲田〜大塚〜王子〜三ノ輪橋」に残るのみです。そこは九〇%が専用軌道なので生き残ったと聞いています。母校周辺には十八番・三十五番・十九番の路線があり、通学に利用されてきました。指ヶ谷町から薬師坂を息も絶え絶えに登ってくる都電の姿は、高校生活の思い出とともに今も私の脳裏に鮮やかです。

この「都電荒川線」の停留所と沿線の家並みを確かなデッサンの切り絵で表現したのが昭和三十年卒業の稲葉祐吉さんです。昨年夏、朝日新聞に「足立の稲葉さん」と大きく報道されました。

「チンチン電車の通る街」と題して二十九の停留所近辺の作品を発表されたのが昭和六十四年です。しかし、沿線の様変わりには激しいものでした。ポスターでお馴染みの、東京人の郷愁を呼ぶ風景は気づかぬうちに少しずつ消え、コンクリートの建物が増えていきました。しばらくぶりに訪れ、その変わりようを目にした稲葉さんは、また新たな沿線風景を切り取る作業を開始される、とその記事は結ばれていました。

稲葉さんの作品は「都電：」ばかりではなく、「蔵の街」福島県喜多方市の風景もあります。おとし五月までの三年あまり、『会津うるし美術博物館』を管理する傍ら切り絵で「喜多方の町並み」と「蔵のある風景」を記録する作業を、その美術館の館長の依頼で完成させました。

在校中は放送部、新聞部、写真部、バスケット部に在籍、ご活躍でした。毎年頂戴する年賀状は干支を主題に作成され、私の年頭の楽しみでもあります。

譲り受けた作品は、昭和三十八年に制作された『五箇山』です。合掌造りを独特の切り口で表現したこの傑作は、棟方志功、関野潤一郎、ヒロ・ヤマガタ、池田満寿夫の作品と

並んで我が家の壁面を飾り、目を和ませてくれています。

最近では、今春のイオカードの「龍」(表紙をご覧下さい)、荒川郵便局のふみカードの表紙デザインなどに腕を奮われ、地域の子供たちに切り絵の手ほどきもなさっているとのこと。新しい作品の発表を心待ちしています。そして、新しく生まれ変わった母校も独特の視線で切り絵に仕上げただけだと嬉しい、などとひとそかに願っております。

【稲葉祐吉氏宅 連絡先】

〒二二一〇〇五二
足立区六木一の二の一六
TEL 〇三(三六〇五)九二六六

高層ビル(聖路加タワー)からの眺め

からの眺め



S 31年卒
三田 昌男

私は毎日中央区明石町にある聖路加タワーに仕事で行っております。四十八階建の多数の会社が入っているビルとホテルが入っている三十五階建のビルがあります。二十八階には両タワービルをまたいでいるブリッジがあります。高さ一一〇mの所にあり大地震にもこわれない設備にしてあるそうです。そのブリッジから見る風景はすばらしく雄大です。真下には公園と隅田川の流れが見

えて、飛んでいるユリカモメや水面に浮んでいる姿が見られます。

佃大橋を通る車が小さく見え、隅田川を上り下りする遊覧船や運搬船を引いて行く小さな曳船、貨物船など色々の船が白い航跡を残して走りざります。

遠景には大きなレインボーブリッジが見え、その横に有明のビル群や大回覧車が見えます。その先に東京湾があり、よく晴れた日には対岸に房総半島の山々が見えます。

目を反対側に向けると浜離宮、東京タワー、銀座のビル群、遠くに新宿の多くのタワービル、池袋のサンシャイン等が眺められ、遠くに美しい富士山が顔をみせています。

四季おりおり夕焼や夜の町のネオンの美しさ等色々自然は私の心をなぐさめてくれます。

恒例の初詣 高尾山・城山へ

頂上で健康祈願と祝酒



S 31年卒
梅田 博之

私は、現在八王子市に住んでいますが殆ど毎年正月には近くの高尾山に初登山、初詣に行きます。近年は学生時代からの親友も一緒です。正月、初詣ということで銀座通りのように人が多勢出掛けています。

ケーブルカー、リフトは、乗るまでに待たされますし短時間である程度高い所まで行ってしまうので此の頃は、健康のためにも景色を見ながら下から登山をしています。

登山も正月なので気分的にも何となく清々しく感じます。山の高さも手頃でお昼には高尾山を越えて城山の頂上に着きます。そこで一杯飲んで昼食となりますが相模湖も望め、運動後でもあります、正月気分一杯がとても旨く味は格別です。

そして今年も健康で良い年でありますようにと願う気持ちが湧いてきます。

城山で一休みした後、ここから戻り帰ることが多かったのですが今年、もう少し足を伸ばして久し振りに、城山から見た相模湖まで下るとい感じで歩きました。城山から戻る人が多いと思われ、コースは割合人が少なかったです。

朝から夕方まで歩き、運動をし健康にも役立つ、正月なので普段と違い気分的にも晴れやかでとても良い一日でした。

本年の幸せを再度祈願しました。



「住民基本台帳法」はこれで良いの？



S32年卒
櫻井 弘清

昨年からの政治の動向をみていると、日本国民をまとめるというのか、どうもかつての「統制国家」の方向に流れを変えていくのではないかと考えてならない。なぜかと云えば、国民一人ひとりに背番号をつける「改正住民基本台帳法」、いわゆる「総背番号制」の導入だ。

特に問題なのは、背番号制度の導入である。国会審議もそこそこに、ほとんど国民が知らない間に、決まってしまったようだ。個々の番号は、住民票に沿って三年以内に定めるといふ。確かに住民票コードの移動とか、将来、国民の税金の取り立てや年金払いなど高齢化社会、コンピュータ時代に合わせて国や地方自治体の事務処理には、手間が省けて、監督管理が合理的に強化されるのだから。しかし、個人背番号、個人情報漏れ、プライバシーの侵害という問題が起ころのは今後、必至と思われる、恐ろしいことだ。今でも、一体どこで知るか、知らない所や聞いたことのない人から手紙とか、紹介状、加入書が舞い込んでくる。ましてやこれからはパソコン時代、背番号のキーを押せば、個人の情報が、あからさまに知られてしまう可能性は否

定できない。取り扱いはこれから審議されるというが、逆にみれば、個人情報保護は国家の手のうちに握られることになる。

二〇〇〇年を機に、日本人の意識を見直すという面では良いことだと思いが、二十一世紀の日本を大きく左右する重要な問題であり、もっと時間をかけて国民の全体が納得した上で、決めるべきではなかったか。国会議員は次の選挙で、ぜひこの問題を取り上げて国民の真意を問うてほしいと思う。

どんな時に歳に気づくのか



S48年卒
佐々木 郁子
(遠野)

以前私は、文章を書くことが好きだった。どんな題材でも、例えば階段を上る、というような単純な動作のひとつまからでも、原稿用紙の二、三枚はいつでも書くことができた。

ところが最近はいけない。そもそも書くという気が起きない。このやよいの原稿も昨年から会長より頼まれていたのに、なかなか筆が進まない。一体どういうわけなのか。昨年以上の子が結婚して、家を出て行った。急に年をとったように感じたが、このせいだろうか。私はまだ四十五歳だから、これで年をとったといつては、先輩たちのおしかりを受けるだ

ろう。でも年は気持ちでとるものだと実感した。

気持ちは行動に現れる。天好きだったケーキもパイもほとんど作らなくなった。洋裁だつて好きだったのに、娘のワンピースを一枚作るのに一ヶ月もかかるようになった。読みたい本をいつも二、三冊手元に置いておくのだが、なかなか読み始めることができない。時間がないわけではなく、その気になれないのだ。

学生時代、作家になりたい、なんて思ったこともあったのだが、作家になるにはより多くの人生経験が必要だろうと思っていた。確かにそれはそうだと今でも思うが、多くの人生経験を積んだ頃には、作家としての意欲は反比例に減退していくのではないだろうか。何か意識的に意欲をかき立てるように努力しないと、作家であり続けることはできないのではないのだろうか。

これは何も作家に限らない。おもしろ創造的な仕事にたずさわる人には共通の課題ではないだろうか。

誰でも皆、年はとるものだ。鏡の中の自分に確実に現れる。これは自然の成り行きで、別に悲しいことでもなんでもない。でも年をとることで、何が変わっていくのか、正しく認識しているだろうか。

体が不自由になっていく、目がよく見えなくなってくる、髪が白くなる、しわやしみに悩まされるようになる、耳が遠くなる等、体の変化はよくわかる。でも心も変化していくこ

とをどれだけかわかっているだろうか。「ママ、最近おこらなくなったね」などと子どもに言われて、そういえば腹がたたくなくなったと気がついたりする。これも老化の一つと考えれば、私はとつと年をとつていたのだ。昔、確かによく子どもを叱つたものだ。どうしてあんなにむきになっていたのだろうか、と今になってみると不思議だ。楽しく過ごせた時間をたくさん無駄にしてしまった。この歳になるまで気がつかなかったのが残念だが、もう一度若かった自分に戻ってやり直したいなどとはとても思えない。やっぱりないんだなあ、意欲が。

◎ ホームカミングのご案内 (予定) ◎

日 時：平成12年9月24日(日)
AM10:00~PM3:00

場 所：母校B棟4F 視聴覚室

作 品 展：稲葉祐吉作 切り絵
『喜多方蔵の街』

懇 親 会：PM3:30~5:30

会 費：¥2,000 (軽食会)

申し込み：八ガキ又は振替用紙で
事務局まで要予約



シャンソン歌手 広瀬節子さんコンサート



総会で校歌を唱う会員たち



賛助会員（PTA役員方）と共に

懇親会各テーブル（順不同）





編集委員各位(左から小川、佐々木、宮久保、山本、川端、桜井、三田)



ホームカミング参加者



講演会

特別講演“骨と健康のはなし” 講師 横浜市立大学理学部 谷嶋二三男教授

事業報告

I 役員会(幹事会)

平成10年4月22日(水)
総会打合わせ会 (於 北区東田端出張所)
平成10年9月9日(水)
総会の反省と今後の活動について
(やよい9号誌、原稿の呼びかけ)
(於 北区東田端出張所)
平成10年12月11日(金)
やよい9号について討議
終了後、特別会費徴収。同所にて忘年会開催。
(於 北区東田端出張所)

II 同窓会結成50周年記念コンサート開催

平成10年4月29日(水)
東京マンドリン合奏団(25名)出演
参加者180人が軽快な演奏を満喫した。
(於 母校6階ホール)

III 総会・懇親会

平成10年4月29日(水) みどりの日
参加者90名
第5期生(S28年卒)23名が参加、賑わいに花を添えた。
(於 母校6階ホール)

IV 研究活動

① ホームカミング(学校訪問)について
平成10年9月27日(日)
母校向陵祭参観の後開催。参加者20名。
(於 母校B棟視聴覚教室)
② 広報誌『やよい』9号 発行関係
平成10年12月11日(金)
原稿回収と企画会議 (於 北区東田端出張所)
平成11年1月15日(金)
編集会議 (於 北区東田端出張所)
平成11年2月14日(日)
編集会議 (於 北区東田端出張所)
平成11年3月7日(日)
初校会 (於 北区東田端出張所)
平成11年3月14日(月)
再校会 (於 小川事務所)
平成11年3月27日(土)
発行(13,500部)
住所判明者、旧職員等に11,500部を郵送。在校生、教職員用として800部配布。

V 渉外関係

平成10年4月9日(木)
母校入学式(新入生237名)
小川力洋会長が列席。(於 母校体育館)
平成10年5月30日(土)
PTA勸送迎会に小川会長出席。挨拶をする。(於 六階ホール)
平成10年9月27日(日)
母校向陵祭のPTA部屋に小川会長が“琉球列島今昔写真展”として出展、好評を博す。(於 B棟4階集会室)
平成11年3月6日(土)
母校卒業式(223名)
小川会長が列席。(於 母校体育館)

●平成10年度会計報告及び平成11年度予算案●

都立向丘高等学校同窓会
平成11年3月31日現在

Table with 3 columns: 10年度決算, 11年度予算案, and sub-headers for 収入の部 and 支出の部. Rows include items like 入会金, 年会費, 総会懇親会費, etc.

上記の通り収支報告申し上げます。
平成11年4月29日

同窓会会長 小川 力洋◎
会計 荒川 雅司◎
会計 千田二仁江◎
会計 尾道 郁代◎

監査の結果誤りの無いことを認めます。
平成11年4月26日

監査 石山彼早子◎
監査 寺村 光司◎

(公) 監査委員 会

あ と が き
今会報には多数のご寄稿をありがとうございました。
本年度ある紙面の故、区分等ままならぬ点、ご了承下さい。
本年三月卒業生総数一五、九八三名中住所判明者全
員に配布を目標。未届者は会長までお申下下さい。
尚、活性化に向け費用逼迫につき、年会費等の振込
みご協力を乞い願います。

あ と が き

訃報 section containing names and dates of passing, such as 平塚寛次郎先生(元校長) and 出井 馨先生(元教頭).